DuMA ニュースレター *2020年10月19日*

三浦半島・横須賀、横浜における異臭騒ぎ、さらなる続報

10月5日、12日のニュースレターでも触れました神奈川県横須賀市や横浜市で続く異臭騒ぎですが、先週は大きな展開がありました。10月12日に横浜市で異臭物質の採取に成功し、ガソリンなどに含まれるイソペンタンやペンタンが通常の大気と比較して10倍以上の濃度で検出されたという報道がありました。同時に木材などを燃やした時に発生するエチレンやアセチレンも通常の2倍以上の濃度で検出されたようです。

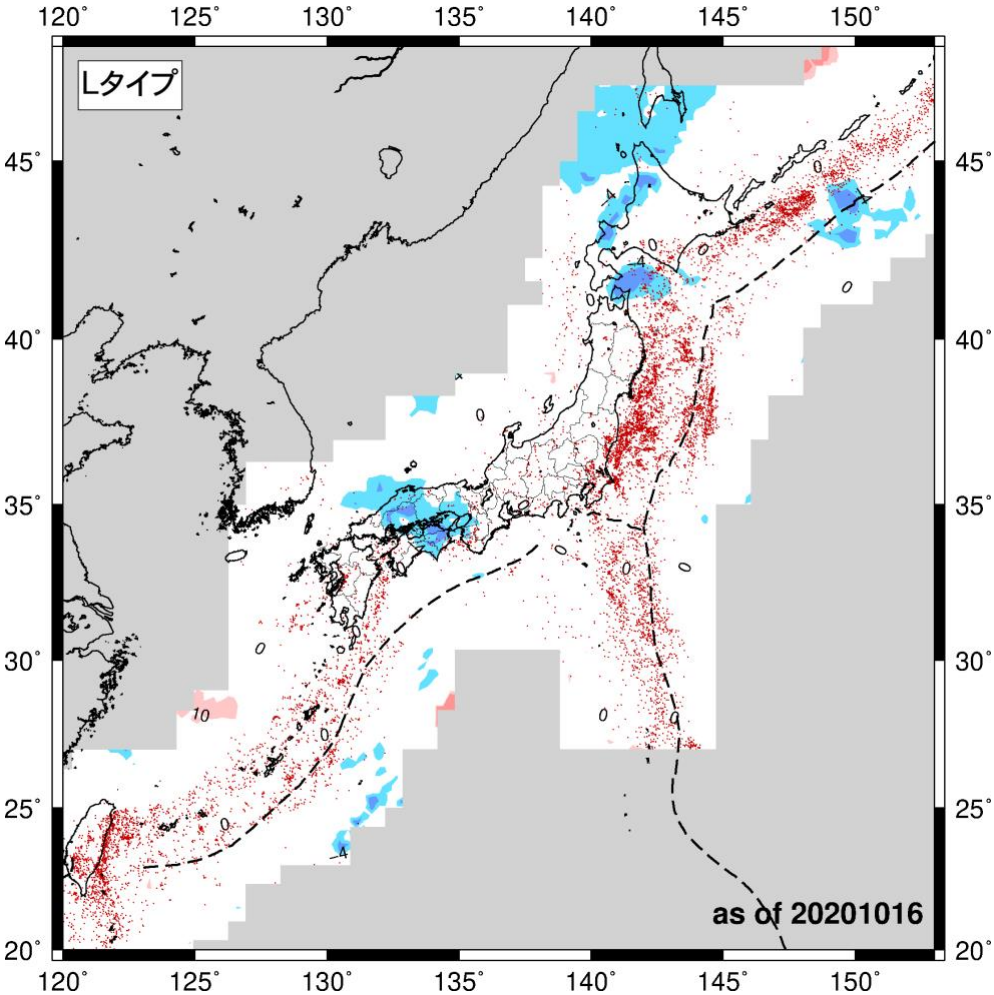
さらに10月14日には横須賀市でも異臭物質の採取に成功し、やはりイソペンタンやペンタン、そしてブタンが通常の7倍から14倍の濃度で検出されたという報道がなされました。

この事は、少なくとも10月12日と14日の異臭騒ぎの原因は**青潮**ではなかった事を意味しています。

今後はこのような物質が自然界（地下）で発生しうるのか、さらに SNS などを駆使して、異臭の空間・時間分布をより詳細にデータ収集する事が原因解明に役立つのではないでしょうか。

日本およびその周辺の広域地下天気図®

今週は9月14日のニュースレターに続き、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。主にマグニチュード 7 以上の地震発生を対象とした解析となります。

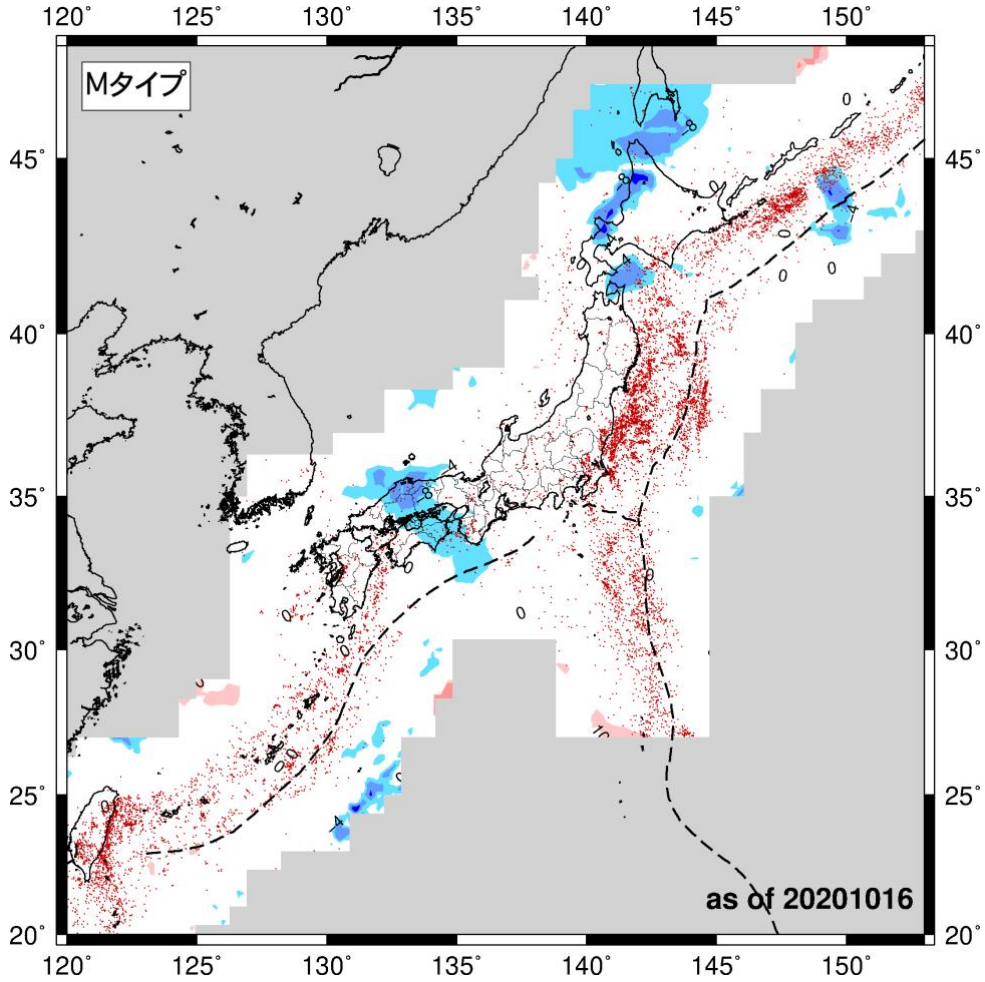


DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、**DuMA**は一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。　**DuMA**ニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。　ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員）―　記事の無断転用は禁止します。―　本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。

まず前ページにお示ししたのがＬタイプの地下天気図です。Ｌタイプでも北海道およびその周辺地域で青い地震活動静穏化の異常の領域が増えています。特に北海道西側（日本海側）で異常が顕著になっています。

次にお示しするのが、Ｍタイプの地下天気図です。北海道西側（日本海側）での異常が顕著となっています。ただ、どちらの地下天気図でも異常はかなり細長い形の異常で、大阪北部地震の前に出現した円形ないし楕円形の異常とは異なっています。経験的ですが、このような形状の異常は少し精度が低い異常と現時点では考えています。西南日本の異常は9月と余り変化がありません。

また相模湾や神奈川県地域にはいずれの地下天気図でも静穏化の異常を見る事ができません。この事から今週のダッシュボードで、相模湾を中心とした異常に伴う地震が発生するとしてもマグニチュード7を超える可能性は小さいとの判断になっています。



DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、**DuMA**は一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。　**DuMA**ニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。　ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員）―　記事の無断転用は禁止します。―　本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。

DuMA ダッシュボードを更新しました。

前回からの変更点：秋田県沖の異常は解除しました。（M）の異常を追加しました。

更新日　2020. 10. 19

地下天気図®解析	地域	警戒度（異常の確度）	現状	静穏化・活発化期間		予測有効期間	備　考
				いつ頃から	いつ頃まで		
静穏化異常継続中	北海道北部からサハリンにかけて（A）	High	静穏化継続中 再び静穏化が強くなってきた？	2018年5月	継続中		サハリン北部では1995年にネフチェゴルスク地震（M7.6）が発生し，2000名近くの死者が出た事がある。
静穏化異常継続中	襟裳岬周辺（I）	Medium	まだ異常の面積は小さいがLタイプ、Mタイプの両方で静穏化出現 発生するとしてもM６クラスと推測	2019年3月	一度解消したと思われたが、広域的な解析のMタイプで再び静穏化を確認	一度2021年7月迄としたが、静穏化が再び強くなったので、予測期間を削除した	この地域は基本的には2003年の十勝沖地震で大きなエネルギーは解放されたと考えられているが、胆振東部地震の発生などもあり、次の段階に入った可能性がある
静穏化異常一応終了	岩手・宮城沖（B）	Low	LタイプでもMタイプでも静穏化が出現	2019年11月	2020年5月	2020年11月迄地震活動が活発な地域のため、予測期間を半年とした	岩手県およびその沖合の異常は一度は解消したが、再び出現している事も判明
静穏化異常継続中	能登半島周辺および北陸地方（H）	Medium	LタイプでもMタイプでも静穏化が開始した	2020年1月	一度ほぼ解消したが、静穏化再出現と判断		上高地周辺ですでに群発地震が発生したが、異常はまだ残っている
静穏化異常解消	北関東から房総半島沖（C）	Medium	複数のパラメータによる地下天気図解析で静穏化が認められる	2019年8月	2020年7月	予測有効期間を首都圏の重要性を鑑み、１年ではなく半年とすると2021年1月頃までが警戒期間	埼玉県周辺での静穏化異常は３１１以降では初めて より大きな地震を解析対象としている東北地方海域の地下天気図解析では異常がさらに強くなっている事が判明 2019年12月以降、関東地方の地震活動が活発化している
静穏化異常解消	房総半島南東沖（K）	Low	アウターライズ（東北・関東沖合）のLタイプ、Mタイプ地下天気図に同時に出現	2020年5月	2020年7月解消と判断	2021年1月	異常は大正の関東大震災が発生した相模トラフ沿いに出現異常の継続時間が短く不安定であった
静穏化異常継続中	相模湾・神奈川県を中心とした地域（M）	High	日本列島陸域、首都圏、東海地方以西の３つの地下天気図解析で異常継続中	2020年9月	継続中		異常の中心は神奈川県・相模湾であるが、実際には東京や静岡県東部も含む広い地域に異常出現中。規模はM6クラスか？
静穏化異常継続中	近畿地方（和歌山県を中心とし、四国東部を含む地域） 一部中国・四国地方でも異常が出現（D）	Medium	Mタイプで大きな静穏化、Lタイプは18年の大阪北部地震の影響がまだ残っており、静穏化は明瞭でない。	2019年2月	継続中		解析に使用している地震がM3.5以上と大きいため、M７クラスが発生する可能性があると考えている
静穏化異常継続中	紀伊半島沖の南海トラフ海溝軸付近（J）	Medium	Lタイプ、Mタイプで共通の静穏化異常が出現していたが、現在は広域解析のMタイプのみで異常が残る。逆に串本近辺では局所的に地震活動が活発化している事も判明	2019年1月	2020年6月ほぼ解消	一部解析で静穏化が残っているため、2020年11月頃までが暫定の警戒期間	地下天気図解析では顕著な異常となっているが南海トラフはもともと普段は地震活動が低いため、解析に使用できる地震数が少ない。そのため精度が若干落ちると考えられる

DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、**DuMA**は一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。　**DuMA**ニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。　ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員）―　記事の無断転用は禁止します。―　本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。